

カーリングストーンデリバリロボットにおける回転付加機構に関する検討と実装

○伊與田一, 曾根忠瑛, 河村隆 (信州大学)

Study and Implementation of Rotational Addition Mechanism in Curling Stone Delivery Robot

○ Hajime IYODA, Tadaaki SONE and Takashi KAWAMURA

Shinshu University

Abstract: We are developing a curling stone delivery robot that can make pitches that can be played against humans. To enable reliable rotation, we are designing a mechanism to rotate the stone using the handle of the curling stone.

1. 緒言

本研究は、カーリング競技を対象とする。カーリング競技は、ウィンタースポーツ全体で見ると、日本における競技人口は2020年の調査では、登録競技者が全体で2306人と少なく^[1]、また施設の普及の点においても他の競技には及ばない、その理由として競技の理解が進んでいないことが原因の一つとして挙げられる。カーリングは「氷上のチェス」と呼ばれ、細かい戦略、高度な技術を要するスポーツである。氷の状態を読み、ストーンの投球を行うことは人の経験や感覚に頼ることが多く、戦略も大まかな定石しか存在しない。本研究の目的は、人間と対戦可能なカーリングロボットシステムを開発することで、未だに解明されていないストーンの挙動に関する物理現象を解明し、カーリング競技の普及・発展に寄与することである。

2. デリバリロボット

デリバリロボットは2つの主要な機構で構成されている。1つ目は、カーリングストーンを目標速度で投球する押出機構である。2つ目は、投球されるストーンに指定された回転を付与する回転付加機構である。本報では、デリバリロボットにおける回転付加機構に関する検討と実装について述べる。

3. 回転付加機構について

回転付加機構は、ストーンに角速度を与える機構であり、目標角速度は約12 rpmである。

3.1 先行研究について

これまでに開発された回転付加機構について述べる。今までのデリバリロボット試作機では、打ち出し時にストーンの外周円筒に対して押し付け、平ベルトで回転力を与える平ベルト式機構と、ウレタンローラをストーンに押し付けて回転を付与するウレタンローラ式機構、平ベルト式を改良したタイミングベルト式が試作された。しかし、先行研究の回転付加機構には確実な回転ができていない問題がある。この問題解決のため、新たな回転付加機構の開発が必要である。

3.2 新型回転付加機構の開発

新たに設計された、回転付加機構について述べる。先行研究で発覚した問題を新たな設計を行うことで解決を図った。現在設計を行っている回転付加機構のCAD図を図1に示す。問題解決のために、カーリングストーンのハンドルを把持し、ストーンを回転させる機構の設計を行っている。投球の際には、ボールスプラインを利用しており、ハンドル保持部分を上下させることでストーンのハンドルの部分との接触を外しストーンの投球を行う。

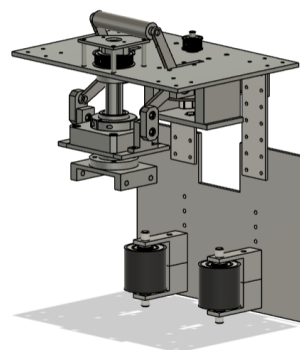


Fig.1 New rotary addition mechanism

4. まとめと今後の展望

今までの回転付加機構である確実な回転が付与できていない問題を解決するために、カーリングストーンのハンドル部分を把持し回転を与える新型回転付加機構の設計を行った。今後は、設計した回転付加機構をデリバリロボットに実装し、実験を行い、回転付加機構の目標を達成することを目指す。

参考文献

- [1] 佐川スポーツ財団: <https://www.ssf.or.jp/knowledge/dictionary/curling.html>. カーリング-スポーツ辞典.